第3講　基本構造

PART1　語順

〔例題〕「移二榻於戸外一而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

① 戸外より榻を移して寝ねたり。
② 榻を戸外に移して寝ねたり。
③ 戸外に寝ねて榻を移したり。
④ 榻を移して戸外に於いて寝ねたり。
⑤ 榻は戸外にて移して寝ねたり。

一　基本構造（＝「語順」）

① S（主語）＋V（述語）
（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

② S＋V＋O〔目的語＝～**ヲ**〕

③ S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝～**ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C
（＊名[1]　動[4]二　名[2]ヲ　於・于・乎　名[3]ニ一）

⑤ S＋V＋C＋O
（＊名[1]　動[4]二　名[2]ニ　名[3]ヲ一）

⑥ 修飾＋被修飾

＊①・⑥は日本語と語順が同じだが、②～⑤は異なる。そこで漢文を日本語の順番で読むために「返り点」をつける。

★①～⑤において、Sが省略される時もある。→**Vにあたる部分を探す。**

第3講　PART1　確認問題

① 白文の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「我読書。」

ア　私は書物を読む。
イ　私は読み書きをする。
ウ　私の読む物を書く。
エ　私が書いた物を読む。

② 次の中から、正しくないものを一つ選べ。

ア　漢文の語順と日本語の語順は、同じものもあれば異なるものもある。
イ　漢文では、普通「修飾語」は、「被修飾語」の後ろに置く。
ウ　日本語は「ＳＯＶ」の語順だが、漢文は基本的には英語と同じで「ＳＶＯ」の語順である。
エ　置き字「於・于・乎」の後ろは、補語〔＝〜ニ・ト・ヨリ（モ）の送り仮名をつける〕になることが多い。

③ 文を読み下したとき、傍線部はどのように読むか。最も適当なものを、次の中から選べ。

吏ノ呼一ニ何ノ怒レル

ア　呼びて　イ　呼ぶ　ウ　呼ぶこと　エ　呼ばん

④ 次の傍線部の中で、述語でないものを一つ選べ。

ア　十九世至㆓寿夢㆒、始称㆑王。

イ　札、賢。

ウ　徐君愛㆓其宝剣㆒。

エ　季子、心知㆑之。

⑤ 傍線部のはたらきとして最も適当なものを、次の中から選べ。

獣見テ㆑之ヲ皆走ル。

ア　主語　イ　述語　ウ　補語　エ　目的語

第３講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「我読書」は「我（主語）＋読（動詞）＋書（目的語）」となり、日本語で表すと「我は書を読む（私は書物を読む）」という意味となる。

②「修飾」・「被修飾」の語順は、漢文でも日本語と同様に「修飾語」は「被修飾語」の前に置かれる。よって、イが正解。

③「怒れる」がこの文の述語（動詞）なので、「呼」は補語。この場合、連体形か連体形＋コト（モノ）の形で読み下す。

④返り点に従って読み下したとき、述語は最後にくる場合が多い。アは最後に読む「称」が述語。

⑤返り点に従い、「獣之を見て皆走る。」と読み下す。「之」に「～ヲ」の送り仮名がついているので、目的語である。

〔解答〕

①ア　②イ　③ウ　④ア　⑤エ